



定額一圓五角 月刊金五圓 郵費五圓
廣告料五圓 印刷費一圓五角
發行所 常報日新聞社
印刷所 常報日新聞社

信仰身の上相談

眞 繼 雲 山

失ふた心の痛手

【問】私は或る心の痛手を負ふて學問も何もイヤになり、今は郷里へ歸つてゐます。その失はれたものは永久に得られず、裏切られ欺かれた憤りは又のやうに私の心の奥底に凍りついて、拂ふことも消すことも出来ません。死をさへ決しましたがあまりの無念さに死ぬことすら出来ないのです。行くには餘りにも胸の痛手の痕が深く大きいのであります。

正しき戀愛は人生の花

【答】あなたが失はれたりといふその失せ物は何であるかを私は知りかねます。しかし金か否か、あらず戀ですから恐らくはその邊ではないですか。佛教には肉食妻帯を禁ずる意味の言葉があつて、佛教といへば一も二もなく寒巖枯木、無味乾燥な、人生の避難所のやうにすら考へられがちで

影であると同時に、失ふことも亦池影の一波紋に過ぎないでせう。得失共にそれは人生の一場面、池水の雁影とすればその影を追ひ、影に固着するの愚をやめにして、笑つて人生を鑑賞なさいませ。

【書】フライ……えび、ぼら、ひらめ、ソース、【晚】にしめ……こんにく、里芋、生揚とうふ

【朝】みそ汁……ハッ頭、【書】フライ……えび、ぼら、ひらめ、ソース、【晚】にしめ……こんにく、里芋、生揚とうふ

【問】私は或る心の痛手を負ふて學問も何もイヤになり、今は郷里へ歸つてゐます。その失はれたものは永久に得られず、裏切られ欺かれた憤りは又のやうに私の心の奥底に凍りついて、拂ふことも消すことも出来ません。死をさへ決しましたがあまりの無念さに死ぬことすら出来ないのです。行くには餘りにも胸の痛手の痕が深く大きいのであります。

ノット

【問】私は或る心の痛手を負ふて學問も何もイヤになり、今は郷里へ歸つてゐます。その失はれたものは永久に得られず、裏切られ欺かれた憤りは又のやうに私の心の奥底に凍りついて、拂ふことも消すことも出来ません。死をさへ決しましたがあまりの無念さに死ぬことすら出来ないのです。行くには餘りにも胸の痛手の痕が深く大きいのであります。

【問】私は或る心の痛手を負ふて學問も何もイヤになり、今は郷里へ歸つてゐます。その失はれたものは永久に得られず、裏切られ欺かれた憤りは又のやうに私の心の奥底に凍りついて、拂ふことも消すことも出来ません。死をさへ決しましたがあまりの無念さに死ぬことすら出来ないのです。行くには餘りにも胸の痛手の痕が深く大きいのであります。

見奇英を譲す勿れ戊戌と辰己の二黒病氣怪俄あるか暫く逢ぬ者が来て厄介なるか古き事件で心配するか凶日なれば萬事に注意【三】金銭問題で家内に争論を引起す事あれば和順に交際す可し戊戌と辰己凶【四】緑金談や望事に猛進し吉を凶に醸す事あれば和順を以て進む可し東西凶【五】病氣怪俄紛失盜難の禍害を豫防すべし未申丑寅凶【六】白金銭出費の爲に頭痛八巻の事あれば水火の難と注意南北凶【七】赤外見良く見て内輪に苦勞起る事あれば水火の難と眠病に注意南北凶【八】病氣怪俄紛失盜難の難に注意して未申と丑寅凶【九】金談縁談望事等皆進んで大吉利を得る日東西に向ては凶となる

非常時日本は健康より！健康福壽會員大募集!!!
純精 無臭 にんにく丸
「にんにく」は半永久的常用の強壯精分なれば持に小量値を全廢し毎食後正確五分分入り送料本社持のみにくい白玉にんにく
臭くない白玉にんにく
小量 卸値 三十日分五十銭 (代引) 七十分分壹圓也 (謝絶) 品質容量必ず他品と御比較乞ふ (特約店大募集)

命取り 菱の實で治つた経験
【右は雑誌「主婦の友」第十四卷 第九號所載記事の全文轉載】
同記事中に曰く「胃瘤、子宮瘤、舌瘤その他癌と名のつく方が用ひると不思議に……云々とあり。賣薬に 菱の實 七斤送料共前金 (服用法) 明らかに卸元 日本佛教新聞社 東京市神田區今小路 (持約店募集) 電話九段 三三一 一 振替東京一五六〇番

日本佛教新聞社 創刊十二年旬刊 餘點佛書畫目進呈

秋……と……カメラ!!!
聞いて……見て……使つて驚く
MS カメラの軽便さ!!!
これでは誰にも良く撮れる筈です
題材豊かな行樂の秋……
今こそカメラ絶好のシーズン
どなたもぜひMSカメラで朗かに
各種カメラ 平 驛 前
特約店 いづみや玩具店
カメラ部

産名島松
美味と滋養で名高い一の井の
カキ貝 御料理
獨カキフライ……廿五銭
カキナベ……四十銭
特カキス……廿五銭 一の井
電一六七番

乞御期待 近日上映
非常時全日本國民に捧ぐ!!感激篇来る
オールスター史上初の光榮に浴す
賜天覽 台覽 文部省御推薦の光榮
楠公父子

各地切封 断縦の定豫
池田富保監督 渡邊霞亭巨作
早川 雪洲 澤村昌之駒主演
大津 大津座 内郷 警城 劇場
高萩 明座 平 聚樂館
磯原 公開堂 四倉 四倉座
湯本 湯本座 浪江 浪江座
小名 警城座 小高 小高座
江名 江樂館

東京市場を指して

簡単な干ガキの製法

農試分場が苦心の末発見 色澤風味共に極めて結構

上野野、澤渡、三坂方面の山間部落より毎年正月の飾り物及び食用として多数産出される乾柿は比較的色彩が悪いといふので東京市場に於いては可なり不利な條件で取引されて居るのを見た神谷農事試験分場では種々研究中の處今回硫黄に依る燻法ならば

良品の出来る事が判つたがその方法は極く簡単に大型茶箱の中に皮をむいた柿を吊し箱の底へ小型の火鉢を置いて硫黄一匁位を入れて燻し二十分も密閉して置けば

出来上る ので今後郡下の乾柿製法は一變すると同時に東京進出の目醒しいものがあらうと

園藝農産物

平町の収穫高

平町役場で最近調査した平町に於ける園藝農産物の産額を見ると桃の栽培が最高で二千二百本の収穫高八千八百石(千七百六十圓)次は煎茶の百二十貫(四百九十圓)梅が百六十本(六百九十圓)である

平の水道料は

他地より安いと

湯屋側の値下陳情を けふ却下す

平町の水道使用料の變更によつて湯屋業者の料金は從來五十立米迄が三圓、一立米を増す毎に三錢宛の追加であつたのが一立米を三錢五厘宛の追加とす毎に三錢五厘宛の追加とす

を聞き協議を遂げたが同町に於ける最近一ヶ月平均湯屋業者一戸一ヶ月平均使用量を各地の料金に換算すれば

福島市	九、五四〇
郡山市	八、二二〇
本宮町	九、五四〇
平町	八、七二〇
平均	九、〇〇五

となり改正後の料金八圓七十二錢は平均額よりも廿八錢の低廉であり従來の料金八圓廿錢より僅かに六分四厘の値上げに過ぎず死活を制する程の問題ではないと湯屋側の値下陳情を却下した模様である

押し寄せたり 秋刀魚の大群

引續いての大漁に 水揚相場が一錢一厘

秋刀魚の大群は最近本郡沖合に圍集しその先驅は既に茨城沖に迄及んで居るが昨廿七日縣指導船警城丸の報告に依ると小名濱沖二百海里の地點で江名町の盛厚丸及び萬世丸が何れも十五六萬尾の漁獲を見目下歸港中の由尙四倉町菅波末吉氏所有稻荷丸は昨廿七日秋刀魚十五萬尾を四倉港に水揚したが相場は一尾一錢一厘の安さで近く郡下の各漁濱は秋刀魚の山を築いて活氣を見るであらうと

本郡の青年選手が

晴れの神宮競技へ

第七回全國青年團體大會は愈々來る三十一日より三日間明治神宮外苑に於て開催されるので本縣代表二十名は三十日午前五時上野驛前に集合するが本郡關係の選手は左の如くにて明日午後二時十五分にて壯途に着くと

(百米)小名濱 草野仁(千五百米)内郷 小坂橋新一

協議會開く

平蠶業取締支所では來る廿一日午後一時より管内各町

就職兒の協議事項

協議事項

村の養蠶技術員會を開き桑園改植に就いての協議會を開くと

既報來る三十一日午後一時より町役場會議室に開かれる平蠶業紹介所連絡平外十三小學校長會議の協議事項左の如くである

- 一、性能検査實施に關する件
- 一、就職希望兒童の健康診断の件
- 一、兒童及父兄に配布するビラ作製の件
- 一、十一月十日職業紹介日實施の件

辯論選手出福

明日午前九時より福島高商講堂に於て開催される同校主催の第六回關東北、北海道中等學校辯論大會に出場する磐中の眞木及び平商の山家兩君は本日各係教諭に引卒業後平發午前十一時十八分にて出發した

第一校の書方出品

四月四日より三日間本縣女子師範學校に於いて開催される縣下小學校兒童書方展覽會に平第一小學校よりの出品兒童は本日左の如く決定した

二年 廣田豊 三年 石川榮
一 四年 龜山正邦 同 鈴木喜彌 五年 大須賀淺吉
同 青木肇 六年 小坂隆道
同 安齋憲次郎 高一 森大志勝 同 松崎康利

磐女臨時試驗 磐女では來る八、九の兩日一齊に第二學期臨時試驗を行ふ

平町人事

△銀治町四當時小名濱町字沖見六吉田正壽氏二男正△四丁目三井四郎氏三男保雄
△材木町二九川名昌之(二四)七軒町三九田卷ナヲ(二三)

一冊の代金で 御希望通りな

五冊の雑誌が 自由に讀める

川崎 文庫 (申込次第規則書送呈)

市原醫院

平町 田町 電話一四四番

旭硝子株式會社製品 赤菱印 板ガラス

製造 賣販 硝子 菓子 食器 其他 各種

松崎硝子製作所 平町新川町(電話一四二番) 仙臺市榮町(電話五九七番)

咽喉專門

平町田町七〇番地

山内醫院 醫學士 山内亨吉 電話六九一

入院 應需

專門 產婦人科 花柳病科

井坂醫院 町田町 電話五五九番

幼児の診療

無料を目的に

隣保館を建設

本縣最初江名町に

江名町では最近方面委員及び町有力者が協力して幼児保育の社會事業として無料診療を目的とする江名町隣保館の建設案を計畫し着々準備中であるが本縣に斯うした施設のあるのは現在福島市のみで郡山白河も計畫中ではあるが農山漁村方面では江名が最初である

鮮魚満載の

自動車に衝突

老婆絶命

小名濱町字古港自動車營業者平野直康方運轉手小林善吉(三)は去る廿六日午後三時半頃トラックに鮮魚を満載して白河町に向ふ途中西白河郡五ヶ所村字板橋地内

青訓演習の

部隊編成決定

遺憾ながら大砲は不参加

既報来る十一月二十二、二十三の兩日植田方面に於いて開催される郡下聯合青年訓練所の秋季發火演習の

総人員は約二千名で

南北兩軍に分れ北軍は植田南軍は窪田に各本據を置き二十二日午後六時半頃より同九時半頃迄植田、窪田間

する兵器は機關銃六挺、小銃六百挺、彈丸六千發で過般來仙臺野砲第二聯隊に交渉中であつた山砲二門は都合に依り不参加となつた因に指揮官は南軍四家少佐、北軍は齋藤少佐である

(南軍一中隊)山田、勿來川部、上遠野、入遠野、田人、磐崎、渡邊(同第二中隊)湯本、泉、小名濱、玉川、飯野、好間第一、同第二、平、内郷(北軍第二中隊)植田、錦

鹿島、江名、川前、桶賣小川、赤井第一、同第二平窪、豊間、高久(同第二中隊)夏井、神谷、草野、大浦、大野第一、同第二、澤渡、差鹽、上三坂、中三坂、下三坂

石炭拾ひの最中

背後から轢かる

手當の効なく死亡

内郷村大字綴無職安達サト(四)は昨日午後一時頃磐城炭礦専用鐵道線路で石炭拾ひの最中後方より疾走して

江尻博孝氏の

山林問題敗訴

昨日福島地方裁判所で

泉村多額納税者江尻博孝氏は一昨年六月田人村字熊倉の區長緑川初太郎氏を相手取り山林六筆の土地所有權確認訴訟を平區裁判所に提

明日の天気 廿九日 今晩は南西の風晴曇半し明日は北西の風晴

今晩の部 後六、〇〇(子供の時間) 童話劇(豊年の秋)BK コドモサークル 後六、二五(ことばの講座) 後七、三〇(時事解説) 後八、〇〇(琵琶「栗原中隊長」高田旭邦) 後八、四〇(舞臺劇「梅の由兵衛」岡田川堤の場)大谷友右衛門一座竹本連中竹本米大夫外長唄はやし連中竹屋榮藏社中

主人の娘と店員 天國の戀を求めて駈落 入山自治館で 演習打合 入山自治館で 既報来る十一月五日入山炭礦主催の下に行れる同礦在郷軍人及び湯本青年訓練所の發火演習打合せ會は来る三十日午後六時より入山自治館に於て開かれるが平町より山崎、藤田の兩氏を始め磐中大井川、平商駒場の兩配屬將校が出席すると

主人の娘と店員 天國の戀を求めて駈落 入山自治館で 演習打合 入山自治館で 既報来る十一月五日入山炭礦主催の下に行れる同礦在郷軍人及び湯本青年訓練所の發火演習打合せ會は来る三十日午後六時より入山自治館に於て開かれるが平町より山崎、藤田の兩氏を始め磐中大井川、平商駒場の兩配屬將校が出席すると

青沼町長 代表上京 設定陳情に 青沼平町長は來月六日全國町村長會より政府當局に對して地方財政調整交付金制度設定に關する陳情を行ふ爲め縣代表として上京する 磐女職員茸狩 磐女職員一同は本日午後一時より平窪方面山林に茸狩を催した

平職業紹介所報告 回人を求める方 △女中 三十才 尋卒 月五六圓(平町某) △農夫 三十才 委細面談(鹿島村某) △車力 三十以下 尋卒 日給七十錢(平町某) △配達 十六才 尋卒 年五十圓(高久村某) 回職を求める方 △給仕 十八才 實業專修 卒 給料面談(渡邊村某) △雜夫 四十二才 尋卒 給料面談(内郷村某) △女中 二十才 平陽女卒 給料面談(平町某) △事務員 二十四才 早大 専門部卒 給料面談(平町某)

銘劍秘双録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演
山本英春畫

第七十六回 血に飢ゆる村正

證據を握つた二人
勇吉が廻つて参りますので二品ばかりの者を眺へて置き
紋「サア大きな物で一杯呑んぢやア何うだ」
勇「是ア有難え實に太夫衆でもお前さんのやうに年を老ると親切があつて有難え若い者は只面を光らしたり藝者衆の跡を追掛けて歩いたりして仕方がねえ」
源「中々馬鹿の様ぢやアねえ」
紋「サア肴が来た遠慮しちやア行かねえよ」
と宜し鹽梅に勧めるので思はず酔つて了ひ
勇「モ一住けねえ餘まり酔ふと旦那は叱らねえが内儀さんに叱られる、勝手のやうだがお暇をします」
紋「一寸待ちな、お前が使ひに行く先を當て、見せやうか」
勇「當りやア剛氣の者だ」
紋「袖摺稻荷の脇に居る榮之丞さんの處へ行くハッ橋花魁の手紙だろ」
勇「よく當つた」
紋「一寸俺に見せねえか」
勇「往けねえ、内儀さんが然う云つた、誰にも見せるなと云はれて来たの」



鹿だから大して叱られやアしねえ」
勇「成ほど然うすりやア宜いなア」
源「決して俺達に見せたとて斯うくだと實に目を當てられやうな悪口が澤山書いてございまするし、化物々々と云ふは次郎左衛門の事に相違ない證據が手に入つたと見ると之を持つて銀町の佐野屋へ行き旦那へ意見の種にしやうと商賣柄に似合はない二人の暫間
源「勇どん飛んだ事をした封を切つて終つたから逆も

と云ふのを手早く紋吉が讀んで見ると今夜は是非来て呉れといふ迎ひの手紙其の中に佐野の化物が昨夜来て斯うくだと實に目を當てられやうな悪口が澤山書いてございまするし、化物々々と云ふは次郎左衛門の事に相違ない證據が手に入つたと見ると之を持つて銀町の佐野屋へ行き旦那へ意見の種にしやうと商賣柄に似合はない二人の暫間
源「勇どん飛んだ事をした封を切つて終つたから逆も

持つて行く事は出来ねえ」
勇「往かねえ事をしたなア」
紋「斯うしねえ、お前に一分やるから黙つて此の手紙を賣つて呉んねえ、然うして萬字屋く往つて橋の戸か船橋が花魁に合つて落しましたからモ一本書いて下さいといふても平常が馬

源「宜いぢやアねえか俺達に見せたとつて邪魔にはならねえ、同じ事でも花魁の客にでも見せちやア悪いが暫間に見せる分には構はねえ」
源「いけねえ、何をするとだ花魁と内儀さんに叱られる」
源「夫も然うだな、見るなら見るが、い」
と何心無く出した手紙は榮之丞へハッ橋より書送る文、文句の中には證據になる事がありやアしまいかと突然源久が封を切つて了ひました
勇「いけねえ、何をするとだ花魁と内儀さんに叱られる」

源「御無沙汰をいたしました」
次「オヤ是は揃つて能くお出でなすつた」
紋「サア旦那へ申し上げたい事がございまして、源久と二人で参りました」
次「何だか知らないが御用と云ふなら承はりませう」
と二人を入れて手を鳴らし女中を呼んで酒肴等を眺へましたのはさすがに行届いたものでございまして
次「時に何の事で」
源「誠に申し悪うございまして、御先代様にお世話になりました我々ども御叱りを願ひます申上げますはハッ橋の事でございまして、あ

御用命は印刷物
常警日印刷株式會社
電話三六〇番

玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

正木織物店ノ生命也
絹織物ノ正木織物店へ
開業三十五週年を祝するため
二割引にて大々的勉強御註文に應ず
御註文ノ時ハ(呼出六七四番)へ店員伺ヒマス
平町字新町貳十貳番(公園下)
白生地 賃織販賣 正木織物店

日本一の フクロクストーブ
絶対煙突掃除ノ要ナキ
完全無缺ノ理想的なストーブ

電話三七番へ御下命下サレバ
カタログ持參御伺ヒ致シマス
福島縣一手 販賣所 阿部石炭商店
平停車場前